

研究科クロスセクション科目 「知の理論」



科目担当教員 樋笠 勝士 (非常勤講師)

90分×8コマ

ゲスト講師陣 田原 誠 (岡山理科大学付属高等学校 校長)

4月上旬～6月上旬  
(木曜日: 10時20分～11時50分)

04/11, 04/18, 04/25, 05/09  
05/16, 05/23, 05/30, 06/06

哲学は「万学の祖」と言われ、大学においては一学問・一科目となっていますが、そこに留めておくのはおかしなことです。哲学的思考の対象となる「問い」は、私たちの生活・人生(=life)のそこかしこに潜んでおり、仕事の場で見つけることができます。

本講義で、そうした問いを拾い上げ、思考と対話を通して一緒に思考する体験をしてみませんか。それは楽しいだけでなく、仕事の場に出会う様々な問題を解決するのにも役立つ、深く豊かな「問う生活」を育むこととなります。考え続けるヒントを、過去の哲学者の言葉だけでなく、思考の実践と対話の中から獲得します。

開講のねらい

哲学的(本質的)な「問い」を自分で考え、他の人々と対話しながら考えることによって、職業生活や社会生活に役立つ自律的思考、共同的思考、批判的思考、創造的思考の技法を養う。

関連キーワード

「哲学的対話」、「対話中心の進行」、「哲学の理論や歴史の知識は不要」、「究極のアクティヴ・ラーニング」、「創造的思考・批判的思考・自律的思考・共同的思考」

受講形態

社会人

対面またはオンデマンド  
(対面推奨)

学生

対面またはオンデマンド  
(対面推奨)

教科書・テキスト等

テキスト指定なし(講師より資料配布)

ディスカッションの  
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	毎回
ディスカッション 割合	三分の二(60分)程度
個人発表	なし
チーム発表	なし
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なし
オンデマンド受講の際の対応	メール或いは適宜のズームミーティングを利用した質疑応答

受講上の  
留意事項

◆毎回の振り返りを行います(質問・意見)

研究科クロスセクション科目

「地域経済をテリトリーから考える」



科目担当教員

杉山 慎策 (非常勤講師)

90分×8コマ

ゲスト講師陣

樋口 輝久 (岡山大学環境生命自然科学学域 准教授)  
 山下 陽子 (語らい座大原本邸 館長)  
 廣瀬 敬久 (日本銀行岡山支店長)

9月下旬～11月下旬  
 (木曜日: 10時20分～11時50分)

09/26, 10/03, 10/10, 10/17  
 土曜日に2コマを2回実施予定

テリトリーとは、地域の文化、歴史、環境などを包括する概念です。「吉備の杜」に内包する歴史や文化を学び、先人の作り上げた文化や歴史をどのように未来につなげて行くかを研究することは今を生きる私たちの責務と考えます。

本講義では、「吉備の杜」を作り上げた代表的先人たちについて学び (KSF:Key Success Factor)、加えて現代の岡山の経済の概要を理解し、今後どのように岡山を発展させるかを議論します。

開講のねらい

吉備の国を作り上げた先人たちは現代の経営論についての知識はないが、実際には最新の経営論を見事に活用して吉備の杜の活性化のためのイノベーションを興している。その実践を学ぶことで経営理論をどのように現代に取り入れればよいかについて議論する。

関連キーワード

「イノベーション」、「選択と集中」、「ブランド化」、「創造性」

受講形態

社会人

対面またはオンデマンド  
 (対面推奨)

学生

対面またはオンデマンド  
 (対面推奨)

教科書・テキスト等

テキスト指定なし (講師より資料配布)

ディスカッションの  
 頻度・割合等

ディスカッション 頻度  
 ディスカッション 割合  
 個人発表  
 チーム発表  
 ロールプレイング  
 受講に必要な知識や学習経験の有無  
 オンデマンド受講の際の対応

毎回  
 15分程度 (毎回)  
 なし  
 最終講義で課題についてチーム別の発表  
 なし  
 なし  
 課題レポートを求め、コメントを加えて双方向の講義を目指す

受講上の  
 留意事項

◆第七回の講義はグループ別に全員で課題についてのディスカッションを行います。

研究科クロスセクション科目 「テクノロジーとビジネスの変革」



科目担当教員 小川 浩基 (非常勤講師)

90分×8コマ

ゲスト講師陣 なし

5月中旬～6月下旬  
(土曜日：08時40分～11時50分)

集中講義：隔週2コマ

インターネット、スマートフォンに代表されるデジタルテクノロジーが私たちの暮らしに大きな影響を与えています。テクノロジーにより、人々の消費行動は変わり、ビジネスも変化し続けています。講師が実体験してきた約半世紀のテクノロジーとビジネスの変革を中心に学び、来るべき、創るべき未来について受講者とともに考えます。本講義では、未来に向けた洞察力や創造力を養い、グローバルな視野でビジネスや社会の変化に対応する力を身につけることを目的とします。

開講のねらい

進化の著しいテクノロジーの歩みとテクノロジーがもたらすビジネスの変化を学び、未来を創る人材として高い視座を獲得する。

関連キーワード

「テクノロジー」、「ビジネス」、「イノベーション」、「ベンチャー」、「未来」

受講形態

社会人

対面またはオンデマンド  
(対面推奨)

学生

対面

教科書・テキスト等

テキスト指定なし (講師より資料配布)

ディスカッションの  
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	なし
ディスカッション 割合	なし
個人発表	質問にテキストで回答 (1限につき2-3回程度)
チーム発表	なし
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の  
留意事項

- ◆土曜日1, 2限の集中講義 (全4回) を行います。
- ◆各自が講義を通して感じた疑問点や興味を持った点について、簡単に調べて結果と感想をレポート提出していただきます。(1限ごと1テーマ、200-400字程度)

## 研究科クロスセッション科目 「デザイン思考」



## 科目担当教員

三原 鉄平 (デザイン学部工芸工業デザイン学科 教授)  
 舩山 俊克 (デザイン学部工芸工業デザイン学科 准教授)

90分×8コマ

## ゲスト講師陣

嘉数 彰彦 (岡山県立大学 特命教授)

9月下旬～11月下旬  
 (金曜日: 10時20分～11時50分)

09/27, 10/4, 10/11, 10/18  
 10/25, 11/8, 11/15, 11/22

将来の予測が困難な「VUCAの時代」と呼ばれる現在、イノベーションとの親和性が高い「デザイン思考」への注目が高まっています。しかし「思考」と名づけられているが故に、しばしば思考法やフレームワークの一種だと誤認されています。

本講義では、デザイン思考が注目されるようになった社会的・歴史的背景を概観し、演習を通じてデザイン思考の各プロセスを経験することで、より実践的な知見とマインドセットを修得することを目的とします。

## 開講のねらい

1. デザイン思考の要諦を理解する
2. 問題発見力を高め、それを表現する手法を理解する
3. 解決のためのマインドセットを身に付ける

## 関連キーワード

「マインドセット」、「人間中心設計」、「グループワーク」、「アクティヴ・ラーニング」

## 受講形態

社会人

対面またはオンデマンド  
 (対面推奨)

学生

対面またはオンデマンド  
 (対面推奨)

## 教科書・テキスト等

テキスト指定なし (講師より資料配布)

ディスカッションの  
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	第3回～第7回
ディスカッション 割合	60分程度
個人発表	なし
チーム発表	あり
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の  
留意事項

- ◆定員20名 ※定員に達し次第、早期に受付を終了することがあります
- ◆第3回以降の事前課題があります
- ◆オンラインツール (Slack等) を使用してのグループワークを行います

研究科クロスセクション科目 「時事と歴史を読む」



科目担当教員 末岡 浩治 (情報工学部情報通信工学科 教授)

90分×8コマ

ゲスト講師陣 中国銀行、山陽新聞、RSK山陽放送から  
ゲスト講師を招へい予定

11月下旬～2月上旬  
(金曜日：10時20分～11時50分)

11/29, 12/06, 12/13, 12/20  
01/10, 01/24, 01/31, 02/07

現代社会における諸問題は様々な要素が複雑に絡み合っているため、歴史的背景をふまえて論点を整理しないと、課題解決に向けた思考には結びつきません。

本講義では、半導体を例としたグローバルな物流、地域課題と地方創生、東京一極集中、国内外の教育問題、外交問題、雇用問題など現代社会の諸課題について、歴史を踏まえてその成因を理解し、課題の本質を探究することを学びます。さらに、正しい情報を得るための手段やコミュニケーションの重要性についても学びます。各講義では、課題解決を目指したグループワークを行い、その提案について講師も含めて討論します。

開講のねらい

1. 現代の諸課題を探究するうえで、体系的な歴史学習が必要であることを理解する
2. 現代の諸課題を解決するために必要な考え方を身に付ける
3. 課題について討論でき、その結果を基に自らの意見を述べる力を身に付ける

関連キーワード

「現代社会」、「時事問題」、「歴史」、「地方創生」、「批判的思考」

受講形態

社会人

対面またはオンデマンド  
(対面推奨)

学生

対面またはオンデマンド  
(対面推奨)

教科書・テキスト等

テキスト指定なし (講師より資料配布)

ディスカッションの  
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	毎回
ディスカッション 割合	45分程度
個人発表	なし
チーム発表	あり
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の  
留意事項

◆毎回、レポートの課題提出があります

研究科クロスセクション科目

「サステイナブルな社会に生きる」



科目担当教員

伊東 秀之 (保健福祉学部栄養学科 教授)

90分×8コマ

ゲスト講師陣

第1,2回：中国四国地方環境事務所  
 第3回：おひさまエナジーステーション(株)  
 第4回：真庭市総合政策課  
 第5,6回：おかやまコープ  
 第7,8回：岡山県環境文化部環境企画課

8月下旬～9月下旬  
 (平日に開催)

集中講義：日付未定

食糧やエネルギーの諸外国への大きな依存や異常気象などの問題は持続可能な社会を構築する上での大きな障害となります。

本講義では、変動する社会、経済、環境問題に対し、環境に配慮した持続可能な社会やライフスタイルの実現に向けた基盤づくりを、SDGs・エネルギー問題・食糧問題の基礎知見を会得した上で、政府の重点課題や岡山県の取組み例から考え、課題解決に向けたワークショップを行い、その提案について講師も含めて議論します。

開講のねらい

行政などにおいて様々な環境問題やSDGsへの取組みの施策に携わっている講師が、本講義で基礎知識および応用について指導し、共に議論しながら、職業生活や社会生活に役立つ自律的思考、共同的思考、批判的思考、創造的思考の技法を養う。

関連キーワード

「持続可能な社会」、「環境問題」、「SDGs」、「ゼロカーボン」、「バイオエネルギー」、「エンカル」、「食料危機」、「創造的思考・批判的思考・自律的思考・共同的思考」

受講形態

社会人

対面またはオンデマンド  
 (対面推奨)

学生

対面またはオンデマンド  
 (対面推奨)

教科書・テキスト等

テキスト指定なし (講師より資料配布)

ディスカッションの  
 頻度・割合等

ディスカッション 頻度	4回程度
ディスカッション 割合	30分程度
個人発表	なし
チーム発表	あり (2回程度)
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の  
 留意事項

◆毎回、レポートの課題提出があります

研究科クロスセクション科目

「ローカル・イノベーション」



科目担当教員

田中 晃一 (保健福祉学部栄養学科 教授)

90分×8コマ

ゲスト講師陣

全体進行：高山和成 (一般社団法人ON-D0)  
 第1回：岩満賢次 (岡山県立大学保健福祉学部 教授)  
 第7回：松原 龍之 (岡山経済新聞 編集長)

9月下旬～11月下旬  
 (月曜日：12時40分～14時10分)

09/30, 10/07, 10/21, 10/28  
 11/05, 11/11, 11/18, 11/25

「ローカル・イノベーション」は、地域の背景や文脈に合わせて行われるイノベーションと定義します。地域のニーズや課題に対応するために、その地域で有効な解決策やアイデアを生み出すプロセスを指します。例えば、特定の地域に存在する資源や技術の活用、伝統や文化に基づいた製品やサービスの開発、地域社会のニーズに応えるための新しいビジネスモデルの構築などが挙げられます。

本講義では、地域人材の育成に取り組む一般社団法人ON-D0の高山和成氏を招へいし、全国的な課題となっている人口減少、地方の存続危機に対し、地方での暮らしを維持し、かつその価値を高める活動・事業を行う「地域人材」の存在について実際の人物の在り様に触れ、地域が抱える課題を解決するための人材育成・取り組みについて論じます。

開講のねらい

地域の価値向上に資する人材とはどのようなものかについて、実際の人物についてマトリクスマッピングを行い、地域に必要な人材について検討する。

関連キーワード

「人口減少社会」、「地域課題解決」、「地域人材の育成」

受講形態

社会人

対面またはオンデマンド  
 (対面推奨)

学生

対面またはオンデマンド  
 (対面推奨)

教科書・テキスト等

テキスト指定なし (講師より資料配布)

ディスカッションの  
 頻度・割合等

ディスカッション 頻度	毎回
ディスカッション 割合	60分程度
個人発表	あり (第6回)
チーム発表	なし
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の  
 留意事項

◆第2回以降は、事前・事後の課題があります

研究科クロスセクション科目

「若手企業人材に必要な各種実践能力の養成」



科目担当教員

稲葉 英男 (非常勤講師)

90分 × 15コマ

ゲスト講師陣

なし

4月上旬～7月下旬  
(月曜日：14時20分～15時50分)

04/15, 04/22, 05/02, 05/13, 05/20, 05/27  
06/03, 06/10, 06/17, 06/24, 07/01, 07/08  
07/19, 07/22, 07/29

第4次産業革命と言われる現代は、人工頭脳(AI)、IoTやDX技術などの発達で、「モノをどう作るか」のキャッチアップの時代から「何を造るか(創るか)」のフロントランナーの時代へと大きなパラダイムシフトに突入しています。

本講義では、若手企業人材として、高等教育機関で習得した基礎・応用知識などを如何にして知恵に変える「思考力」や知恵を実践するために必要な「対人力」と「組織で働く力」など関連能力の飛躍的伸長を目的としたもので、今後のさらに活躍するための企業などの若手人材育成教育の一環として体系的に実施します。

開講のねらい

企業などにおける若手人材の能力向上に向けて、思考法、対人力や組織活動に関して基礎から応用まで総合的な視野での人材育成を目指す。

関連キーワード

「高等教育から企業人などに対して常識として要求される各種基礎能力」、「仕事と脳の機能および記憶とメモ・ノート術」、「仕事技術として必要な基盤的な思考力の養成」、「実践的思考力の強化に向けて」、「対人スキルの基礎と応用」、「問題・課題の解決に向けての基本と実践」

受講形態

社会人

対面またはオンデマンド  
(対面推奨)

学生

対面またはオンデマンド  
(対面推奨)

教科書・テキスト等

テキスト指定なし(講師より資料配布)

ディスカッションの  
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	毎回
ディスカッション 割合	60分程度
個人発表	あり(第6回)
チーム発表	なし
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の  
留意事項

◆第2回以降は、事前・事後の課題があります



研究科クロスセクション科目 「災害医療援助論」



科目担当教員 未定（非常勤講師）

90分×15コマ

ゲスト講師陣 アムダ（AMDA）、岡山県、総社市から  
ゲスト講師を招へい予定

8月中旬～9月下旬  
（平日・土曜日に開講）

集中講義：日付未定

本講義では、AMDAによる派遣講師陣からの実際の災害医療の現場での活動の講義を受け、生死について考える時間を設けることで、災害に直面した人々への洞察を深めます。さらに、災害医療の現場について、想像力を働かせることができるように、現状に応じた柔軟な考え方や対処の仕方を身に着けます。最終的には、様々な状況に生きる人々への理解を深め、人命を尊重する見識を深め、災害に対応する社会システムについて理解を深めます。

開講のねらい 人命、医療、災害について多角的に考える視点を身につける。

関連キーワード 「災害医療」、「人命尊重」、「社会システム」、「想像力」

受講形態

社会人

対面またはオンデマンド  
（対面推奨）

学生

対面のみ

教科書・テキスト等

テキスト指定なし（講師より資料配布）

ディスカッションの  
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	なし
ディスカッション 割合	なし
個人発表	なし
チーム発表	なし
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の  
留意事項

◆講義後、レポートの課題提出があります。

研究科クロスセクション科目 「災害医療援助論演習」



科目担当教員

森本 美智子 (保健福祉学部看護学科 教授)  
田中 晃一 (保健福祉学部栄養学科 教授)

90分×15コマ

ゲスト講師陣

アムダ (AMDA)、岡山県、  
総社市、総社市消防本部から  
ゲスト講師を招へい予定

10月下旬～2月上旬  
(土曜日に開講)

集中講義：日付未定

本演習では、災害医療の現場で柔軟な考え方と限られた状況での対処の仕方などを学び、多くの企業、団体や地域の方々や「困ったときはお互いさま」の精神で人との繋がりを通じて多くの方との連携と協力を学んでいきます。医療に限らず様々な人の協力がある事を学びます。さらに、災害医療の現場について、想像力を働かせることができるように、現状に応じた柔軟な考え方や対処の仕方を身に着けます。最終的には、様々な状況に生きる人々への理解を深め、人命を尊重する見識を深め、災害に対応する社会システムについて理解を深めます。

開講のねらい

人命、医療、災害について多角的に考える視点と技術を身につける。

関連キーワード

「災害医療」、「人命尊重」、「社会システム」、「想像力」

受講形態

社会人

対面のみ

学生

対面のみ

教科書・テキスト等

テキスト指定あり (後日、講義開始時に提示予定)

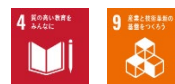
ディスカッションの  
頻度・割合等

ディスカッション 頻度		毎回
ディスカッション 割合		60分程度
個人発表		なし
チーム発表		あり
ロールプレイング		あり
受講に必要な知識や学習経験の有無		なくてもよい

受講上の  
留意事項

- ◆月に1回の土曜日に開講する5日の集中講義
- ◆講義後、レポートの課題提出があります。

## 研究科クロスセクション科目 「データアナリティクス」



科目担当教員	渡邊 淳司 (情報工学部人間情報工学科 准教授)
--------	--------------------------

90分×15コマ

ゲスト講師陣	田原 誠 (岡山理科大学付属高等学校 校長) 上岡 伸 (岡山県総合教育センター) 萩野 寛 (総務省統計委員会担当室)
--------	--

6月中旬～8月上旬  
(木曜日: 10時20分～11時50分)06/13, 06/20, 06/27, 07/04  
07/11, 07/18, 07/25, 08/08

本講義では、データに基づいた合理的な判断力を身に付けた上で、アナリティクスソフトSASを用いて、データの処理やビジュアル化に関する演習を行います。また、回帰分析や多変量解析などの分析に関する演習も実施します。終盤の授業では、ゲストスピーカーを招聘し、教員研修を事例にあげた効果測定や統計制度全般について講義いただきます。グローバル化やデジタル化についても取り上げます。

開講のねらい

普段使用しないソフトウェアを使いこなす柔軟な対応力を身につける。加えて、異分野の話題に触れ、教養の幅を広げることを狙いとする。

関連キーワード

「客観的な分析」、「統計的判断」、「データハンドリング」

受講形態

社会人

オンデマンドのみ

学生

対面のみ

教科書・テキスト等

テキスト指定なし (講師より資料配布)

ディスカッションの  
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	第2回、第7回
ディスカッション 割合	30% (第2回、第7回)
個人発表	なし
チーム発表	なし
ロールプレイング	なし
SASを用いたデータ分析演習	あり
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の  
留意事項

◆授業の予定が変更される場合があります

研究科クロスセクション科目

「アカデミック・プレゼンテーション演習」



科目担当教員

関根 紳太郎 (保健福祉学部看護学科 教授)  
末岡 浩治 (情報工学部情報通信工学科 教授)

90分×8コマ

ゲスト講師陣

未定

4月上旬～6月上旬  
(金曜日: 10時20分～11時50分)

04/12, 04/19, 04/26, 05/10  
05/17, 05/22, 05/31, 06/07

本演習では、自身が取り組む研究内容を整理し、効果的に他者に伝える方法を学びます。いわゆる研究論文とは違い、オーラルプレゼンテーションでは紙面や時間の制約がある中で、いかに重要なポイントを絞って表現するかということが求められます。したがって、コンテンツの作り方だけではなく、いかにそうしたコンテンツを効果的に伝え、印象度を上げるかというデリバリーについても取り組みます。また、本科目では、適宜外部講師を招聘し、多面的視座からアカデミックプレゼンテーションの主要素と言えるコンテンツとデリバリーを強化します。

開講のねらい

アカデミックなプレゼンテーションに特化した演習を通じて、具体的な技術や戦略を学び、自身の研究内容を効果的かつ引き込むように伝える力を向上させることで、プロフェッショナルなコミュニケーション能力を養う。

関連キーワード

「アカデミック」、「プロフェッショナル」、「プレゼンテーション」、  
「コンテンツ」、「デリバリー」

受講形態

社会人

対面のみ

学生

対面のみ

教科書・テキスト等

テキスト指定なし (講師より資料配布)

ディスカッションの  
頻度・割合等

ディスカッション 頻度  
ディスカッション 割合  
個人発表  
チーム発表  
ロールプレイング  
受講に必要な知識や学習経験の有無

担当講師に応じて  
30分程度  
あり  
なし  
担当講師に応じてあり  
学部レベルでの語学関連科目を適切に修得していることが望ましい。自分の研究テーマに関する専門科目を適切に修得していることが望ましい。

受講上の  
留意事項

- ◆特に予習は求めませんが、毎回の演習内容に関する振り返り(復習)は重要と考えます。
- ◆プレゼンテーション資料作成時には、幅広い文献調査等が必要と考えます。適宜図書館やインターネット上に公開されている研究論文等を参照してください。

研究科クロスセクション科目 「アカデミック・ライティング演習」



科目担当教員 風早 由佳 (デザイン学部ビジュアルデザイン学科 教授)

90分×8コマ

ゲスト講師陣 Louis Lafleur (関西学院大学総合政策学部 講師)  
成瀬 尚志 (大阪成蹊大学経営学部 准教授)

6月中旬～7月下旬

06/12(14:20-15:50), 06/19(14:20-15:50)  
06/19(16:00-17:30), 06/26(14:20-15:50)  
07/02(14:20-15:50), 07/09(14:20-15:50)  
07/16(14:20-15:50), 07/23(14:20-15:50)

本演習では、「何のために論文を書くのか」という問いからはじめ、みなさんが持っている問題意識や問題解決方法をどのように言葉にすれば、読み手に伝わる文章作成ができるのか考えます。文章の作成は論文に限ったことではなく、伝わる文章を書くために必要なルールやコツを理解しておくことは、日常の様々な場面でも役立ちます。本科目では、文章を論理的に組み立てて書くための執筆ルールや言葉の使い方を学ぶとともに、ディスカッションを通じて、読解力・批判的思考力の向上も目指します。さまざまな発表形式に対応した文章作成についても解説します。また、英語での論文要旨執筆に必要な基礎知識と表現を学び、各自の関心のある研究テーマに関する英文要旨を執筆した上で、最終回ではそれぞれの関心のあるテーマについてスライドを作成し、発表(日本語)を行います。

開講のねらい

1. 学術論文執筆に必要な基本的な執筆ルールや言葉の使い方を学ぶ
2. 課題に対する問いの立て方、論の展開方法について学ぶ
3. 英語論文要旨の執筆に必要な基本的な英語表現を身に付ける

関連キーワード

「アカデミック・ライティング」、「読解力」、「批判的思考力」、「論理的思考力」、「課題解決力」、「英文要旨」

受講形態

社会人

対面またはオンデマンド  
(対面推奨)

学生

対面のみ

教科書・テキスト等



テキスト指定なし(講師より資料配布)

ディスカッションの  
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	毎回
ディスカッション 割合	30分程度
個人発表	あり
チーム発表	なし(グループディスカッションの意見発表あり)
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	特別な知識や学習経験は必要ありませんが、 関心のある研究テーマを持って臨まれる方が 理解が深まります。

受講上の  
留意事項

- ◆事前・事後課題が課される場合があります(文章、スライドの作成など)
- ◆可能であればPCを持参してください

専門基礎科目	「フードビジネス学」	 
--------	------------	---

科目担当教員	伊東 秀之 (保健福祉学部栄養学科 教授)	90分×16コマ
--------	-----------------------	----------

ゲスト講師陣	岡山県立大学保健福祉学部教員, ノートルダム清心女子大学教員, 中国学院大学教員, 岡山大学教員, 岡山理科大学教員, 岡山県農林水産総合センター, 岡山県工業技術センター, 全国農業協同組合連合会岡山県本部, 生活協同組合おかやまコープ, 農林水産省中国四国農政局, カモ井食品工業株式会社からゲスト講師を招へい予定	8月下旬～9月上旬 (平日に開講)
		集中講義：日付未定

本講義では、岡山県の特産品の食資源開発力に基づく食品の生産、加工、流通、消費について、大学における共同研究、商品開発、食品業界の品質管理や経営の現場から、食品の川上から川下までのシステムについて具体例を挙げて講述します。広い視野から食の安心・安全、食品の研究開発や食品の生産、流通、消費の流れについて、理解を深めることを目的とします。

開講のねらい	食品の生産、加工、流通や機能性食品の研究開発食品に携わっている講師が、本講義で基礎知識および応用について指導し、共に議論しながら、食に係る業種や食生活に役立つ自立的思考、共同的思考、批判的思考、創造的思考の技法を養う。
--------	---


関連キーワード	「機能性食品」、「食文化」、「環境問題」、「SDGs」、「エシカル」、「食料危機」、「創造的思考・批判的思考・自立的思考・共同的思考」
---------	---

受講形態	社会人	対面またはオンデマンド (対面推奨)	学生	対面のみ
------	-----	-----------------------	----	------

教科書・テキスト等	テキスト指定なし (講師より資料配布)
-----------	---------------------

ディスカッションの 頻度・割合等	ディスカッション 頻度   4回程度 ディスカッション 割合   30分程度 個人発表   なし チーム発表   あり (1回予定) ロールプレイング   なし 受講に必要な知識や学習経験の有無   なくてもよい
---------------------	---

受講上の 留意事項	◆授業の予定が変更される場合があります
--------------	---------------------

専門基礎科目	「チームガバナビリティ演習」	
科目担当教員	中村 光 (保健福祉学部保健福祉学科 教授) ほか	90分×15コマ
ゲスト講師陣	岡山県腎臓病協議会会員3名、 ほか2名予定 (いずれも7月の授業)	4月上旬～7月下旬 (金曜日：8時40分～10時10分)  <b style="color: red;">お問い合わせください</b>

現代の高度化・複雑化した社会の中で、保健・医療・福祉分野におけるより質の高い実践のためには、多専門職の連携・協働が必須です。多専門職連携は今日ではinterprofessional working (IPW) と称され、その教育はinterprofessional education (IPE) と呼ばれます。IPEとは、「2つ以上の専門職の学生が、効果的な協働を可能にして医療効果を改善するために、ともに学び、ともに学びあいながら、お互いのことを学ぶこと」と定義されます。本演習では、保健・福祉・医療に関わる多学科の学生と教員が一堂に会して、クライアントに最大限に貢献するための多専門職の連携について、実践的に学びます。授業は、①基礎講義、②チームビルディング演習、③臨床シナリオの検討、④クライアントとの交流、⑤外部講師の実践報告から成り、その多くはグループワークによって進められます。

開講のねらい	看護・栄養・福祉等の保健・医療・福祉に関わる学科の学生と教員が一堂に会して、クライアントに最大限に貢献するための多専門職の連携について、実践的に学ぶ。
--------	---


関連キーワード	「interprofessional working (IPW)」、「interprofessional education (IPE)」、「多職種協働能力」、「problem based learning」
---------	--

受講形態	社会人	対面のみ	学生	対面のみ
------	-----	------	----	------

教科書・テキスト等	テキスト指定なし
-----------	----------

ディスカッションの 頻度・割合等	ディスカッション 頻度   3回目以降は毎回 ディスカッション 割合   前次官の3分の1程度 個人発表   なし チーム発表   大きな発表2回、小さな発表3回 ロールプレイング   なし 受講に必要な知識や学習経験の有無   人体の解剖・生理および疾患についての基礎知識
---------------------	--

受講上の 留意事項	◆定員54名 ※定員に達し次第、早期に受付を終了することがあります。 ◆7月に1回、土曜日午後の開講があります (日程未定) ◆全5回の課題提出があります
--------------	---

専門基礎科目	「地域保健福祉演習」	
--------	------------	---

科目担当教員	坂野 純子 (保健福祉学部保健福祉学科 教授) ほか	180分×7回
--------	----------------------------	---------

ゲスト講師陣	自然セラピーとは(第1回、坂野)、キャップハンディ体験(第2回、若林)、居場所の構想(第3回、向山)、フィーカとは(第4回、久保田)、ハーブとつながる(第5回、若林)、居場所の仕上げWS(第6回、若林)、季節のリースづくり(第7回、難波)	4月中旬～2月上旬 (土曜日に開講)  集中講義：日付未定 (初日：4月13日)
--------	---	--

本演習は、自然との共生がテーマです。岡山の豊かな自然を健康の増進や教育へ応用するために、自然を資源とする健康生成モデルに基づき北欧の「自然を活かしたセラピー (NatureBasedTherapy)」を参考に開発した自然と人がつながるプログラムに参加して、自然の機能を学ぶことをねらいとします。2024 (R6) 年度は、ストレスと共に生きる多様な世代の居場所づくりをテーマとして、建築学科の学生と協働でNBRガーデンに「心の居場所」を創出します。

開講のねらい	キャンパス内のガーデンでの作業を通して、自然と人の相互作用について学ぶ。
--------	--------------------------------------

関連キーワード	「自然を活かしたセラピー」、「人と自然の相互作用」、「環境心理学」、「健康生成モデル」、「リラクゼーション」、「ハーブガーデン」、「アロマセラピー」
---------	--


受講形態	社会人	対面のみ	学生	対面のみ
------	-----	------	----	------

教科書・テキスト等	テキスト指定なし (講師より資料配布)
-----------	---------------------

ディスカッションの 頻度・割合等	ディスカッション 頻度   毎回 ディスカッション 割合   3分の2程度 個人発表   あり チーム発表   あり ロールプレイング   なし 受講に必要な知識や学習経験の有無   なくてもよい
---------------------	---

受講上の 留意事項	◆定員10名 ※定員に達し次第、早期に受付を終了することがあります ◆第2回以降の事前課題あり：毎回の振り返りがあります (疑問・意見) ◆ガーデンの整備を行います (30分程度)
--------------	--



専門基礎科目	「組み込みシステム」	
--------	------------	---

科目担当教員	有本 和民 (情報工学部情報システム工学科 特任教授)	90分×16コマ
--------	-----------------------------	----------

ゲスト講師陣	なし	4月上旬～8月上旬 (火曜日：10時20分～11時50分) 04/15, 04/22, 05/02, 05/13, 05/20, 05/27 06/03, 06/10, 06/17, 06/24, 07/01, 07/08 07/19, 07/22, 07/29, 08/05
--------	----	--

組み込みシステムとは、特定の機能を実現するために家電製品や機械等に組み込まれるコンピュータシステムのことであり、今日、スマートフォンに代表される携帯機器、自動車、事務機器、家電、産業向け機器等、あらゆる場面で組み込みシステムが使われています。よって、組み込みシステムを一言で定義することは困難であり、開発のための要素技術の分野は多岐にわたっています。

本講義では、組み込みシステムの要素技術が、ハードウェアの側面からソフトウェアの側面までの幅広い領域から構成されることを鑑み、その理解を深めるために、組み込みシステム技術を体系化して講述する。また、現状の組み込みシステムの実例を多数紹介します。

開講のねらい	組み込みシステムの全体像を理解し、それを構成するハードウェア、ソフトウェアの基本構成について理解する。また組み込みシステム設計に必要なとされる基本知識を習得する。
--------	---

関連キーワード	「組み込みコンピュータ」、「プロセッサ」、「メモリ」、「システムLSI」、「組み込みソフトウェア」、「組み込み検証」
---------	--

受講形態	社会人	対面またはオンデマンド (対面推奨)	学生	対面のみ
------	-----	-----------------------	----	------

教科書・テキスト等	テキスト指定あり+講師より資料配布
-----------	-------------------

ディスカッションの頻度・割合等	ディスカッション 頻度 ディスカッション 割合 個人発表 チーム発表 ロールプレイング 受講に必要な知識や学習経験の有無	なし。演習問題を提示。 2コマで1回(演習問題) なし なし なし なし なくてもよい
-----------------	---	---

受講上の留意事項	◆期内で計3回の課題(レポート)があります
----------	-----------------------

専門基礎科目	「セキュリティ総論」	  
--------	------------	---

科目担当教員	佐藤 将也 (情報工学部情報システム工学科)	90分×16コマ
--------	------------------------	----------

ゲスト講師陣	山内 利宏 (非常勤講師)	9月下旬～2月上旬 (火曜日：8時40分～10時10分) 09/24, 10/01, 10/08, 10/15, 10/22, 10/29 11/12, 11/19, 11/26, 12/03, 12/10, 12/17 01/14, 01/21, 01/28, 02/04
--------	---------------	---

本講義では、コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な構造を学び、付随するセキュリティ技術を学びます。具体的には、暗号化、認証、Web、メール、マルウェア、IoTセキュリティ、およびフィッシングについて学びます。また、日常的に利用するソフトウェアに関するセキュリティについて、実際の攻撃について調査した内容を紹介いたします。これらの内容を通じて、日常的に利用しているコンピュータへの攻撃の脅威を知り、対策技術の重要性を学びます。

開講のねらい	コンピュータやネットワークの基礎的な構造を学び、付随するセキュリティ技術を学ぶ。
--------	--


関連キーワード	「情報セキュリティ」、「サイバーセキュリティ」
---------	-------------------------

受講形態	社会人	対面のみ	学生	対面のみ
------	-----	------	----	------

教科書・テキスト等	テキスト指定なし (講師より資料配布)
-----------	---------------------

ディスカッションの頻度・割合等	ディスカッション 頻度   なし ディスカッション 割合   なし 個人発表   なし チーム発表   なし ロールプレイング   なし 受講に必要な知識や学習経験の有無   コンピュータ、Web、およびプログラミングについて、基礎的な知識を要する。
-----------------	--

受講上の留意事項	◆受講時は資料を印刷するかノートPC等を持参して参照することが望ましいです。 ◆プログラミングに関して講義中で説明するが基礎的な知識があることが望ましいです。 ◆成績評価は、各回ごとに課す簡単な課題、および、期末試験の代わりに課す最終レポートにより評価します。
----------	--

専門基礎科目	「知的制御システム」	
--------	------------	---

科目担当教員	山田 訓 (非常勤講師)	90分×16コマ
--------	--------------	----------

ゲスト講師陣	なし	9月下旬～2月上旬
		週1回ペースで配信

近年、AIの進歩は目覚ましく、多様な場面で利用されてきており、今後さらに拡大していくと考えられます。本講義では、脳とコンピュータの違いから、脳に近づけるためのAI研究方向性、基本的なモデル（誤差逆伝搬法と連想記憶モデル）の解説を行った後、ファジィ制御、遺伝的アルゴリズム、強化学習、ディープラーニング、フィードバック誤差学習の理論と特徴など、AIを理解するための基本的な情報を解説します。

開講のねらい	知能の概念を理解し、脳で行われている知能的な情報処理を実現するための基本的なモデル（誤差逆伝搬法、連想記憶モデル）と知的制御を実現するための様々な方法（ファジィ制御、遺伝的アルゴリズム、ディープラーニング、強化学習、フィードバック誤差学習）の理論とその特徴について理解する。
--------	---


関連キーワード	「ニューラルネットワーク」、「ファジィ制御」、「遺伝的アルゴリズム」、「強化学習」、「フィードバック誤差学習」、「ディープラーニング」、「深層強化学習」
---------	--

受講形態	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="background-color: #D3D3D3;">社会人</td> <td>オンデマンド (YouTube視聴)</td> <td style="background-color: #D3D3D3;">学生</td> <td>オンデマンド (YouTube視聴)</td> </tr> </table>	社会人	オンデマンド (YouTube視聴)	学生	オンデマンド (YouTube視聴)
社会人	オンデマンド (YouTube視聴)	学生	オンデマンド (YouTube視聴)		

教科書・テキスト等	テキスト指定なし (講師より資料配布)
-----------	---------------------

ディスカッションの頻度・割合等	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>ディスカッション 頻度</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション 割合</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>個人発表</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>チーム発表</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>ロールプレイング</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>受講に必要な知識や学習経験の有無</td> <td>なくてもよい</td> </tr> </table>	ディスカッション 頻度	なし	ディスカッション 割合	なし	個人発表	なし	チーム発表	なし	ロールプレイング	なし	受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい
ディスカッション 頻度	なし												
ディスカッション 割合	なし												
個人発表	なし												
チーム発表	なし												
ロールプレイング	なし												
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい												

受講上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆毎回、その講義の内容に対する課題がある。また、各項目毎にまとめの課題もあります</li> <li>◆提出された課題によって評価します</li> </ul>
----------	---

専門基礎科目	「木構造学・木構造デザイン」	
--------	----------------	---

科目担当教員	向山 徹 (デザイン学部建築学科)	90分×15コマ
--------	-------------------	----------

ゲスト講師陣	①下山 聡 (下山建築設計室) ②小林 正実 (岡山理科大学) ③六車 誠二 (六車誠二建築設計事務所)	8月～9月 (平日に開催)  集中講義：日付未定
--------	--	-----------------------------------

- ①木構造の捉え方、見方、力の流れやバランスの考え方など、日常生活の中にある構造的思考から、災害時の構造の動き、実作を通じて木構造について理解します。
- ②木造の耐震性について、基本的な構造設計法に習熟する。特に一般的な木造の構造計算法をマスターします。
- ③構造ではなく工法という考え方を基に、素材・工法・デザインの統合としての木造について世界の建築や講師自身の作品を通じて理解します。

開講のねらい	建築構造の中の、木構造についての基本的な考え方に習熟すると同時に、構造的観点からのデザインについて、実例を通じて学び、木造で建築を考える感覚を涵養する。
--------	--

関連キーワード	「木質材料」、「在来構法木造住宅」、「壁量計算」、「構造」、「伝統工法」、「在来工法」、「CLT構法」、「渡り顎構法」
---------	---

受講形態	社会人	対面のみ	学生	対面のみ
------	-----	------	----	------

教科書・テキスト等	テキスト指定なし (適宜、資料を配布)
-----------	---------------------

ディスカッションの頻度・割合等	ディスカッション 頻度   なし ディスカッション 割合   なし 個人発表   なし チーム発表   なし ロールプレイング   なし 受講に必要な知識や学習経験の有無   建築に関する基礎知識があることが望ましい (なくても可)
-----------------	---

受講上の留意事項	◆ 1日5コマ、3日間の集中講義で開講する予定です ◆ 対面のみ開講のため、受講は必ず本学に来ていただく必要があります
----------	--

## 専門基礎科目

## 「森林生態学・地盤工学」



## 科目担当教員

穂苅 耕介 (デザイン学部建築学科)

90分×15コマ

## ゲスト講師陣

- ①西本 孝 (e-Tam自然と教育研究所)  
 ②安村 直樹 (東京大学)  
 ③西垣 誠 (統合物性モデル技術研究組合)

8月～9月  
(平日に開催)

集中講義：日付未定

知能の概念を理解し、脳で行われている知能的な情報処理を実現するための基本的なモデル(誤差逆建築)をつくることは、人間と自然との関係を再構築する行為といえます。気候変動による多くの災害やパンデミックに直面している現代社会において、環境の正しい理解なしに建築を考えることは不可能です。そのためには、森林や地盤構造に対する正しい理解が必須です。また、戦後の建設資材としての製材増産のための自然林から人工林への転換、および経済合理性優先の宅地開発等による地盤の軟弱化が、現在の気候変動による災害の甚大さをもたらす大きな要因のひとつになっています。本講義では、森林や地盤についての基本的な知識を修得し、環境から導かれるこれからの建築デザインについて考える素地を涵養します。

## 開講のねらい

1. 植栽樹木について、配付資料とともに、葉の違いに着目して観察する/森林は、人類にとって重要な資源であったことを歴史から学ぶ/森林を構成する樹木の葉の役割、森林の成立条件、森林の現状や進化の過程で起きたことを学ぶ/生態系の成り立ち、生態系の保全、森林生態系と環境との関係について学ぶ/
2. 林業に補助金がでるのはなぜか?/森林を育てるのにかかる時間・費用はどれほどか?/日本ではどのように、どれほどの木材を利用してきたのか?/岡山県の森林・林業は誰がどのように関わっているのか?/森林・林業は誰のために、何のために存在しているのか?/
3. 建築基礎論/地盤沈下対策/地震時の液状化/建築基礎のための地下掘削の課題と対策/氾濫地域の建築考/

## 関連キーワード

「サステナビリティ」、「森林・地盤・森林の多面的機能」、「人工林」、「集成材」、「持続可能性」、「顧客志向」、「高校生物基礎の基本的事項・バイオーム」、「遷移」、「生態系」、「生物多様性」、「里山」

## 受講形態

社会人

対面のみ

学生

対面のみ

## 教科書・テキスト等


テキスト指定なし(適宜、資料を配布)

## ディスカッションの頻度・割合等

ディスカッション 頻度	3/15
ディスカッション 割合	3/15
個人発表	なし
チーム発表	なし
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

## 受講上の留意事項

- ◆1日5コマ、3日間の集中講義で開講する予定です。
- ◆対面のみの開講のため、受講は必ず本学に来ていただく必要があります。

専門基礎科目	「環境デザイン演習」	
--------	------------	---

科目担当教員	原田 和典 (デザイン学部建築学科)	90分×15コマ
--------	--------------------	----------

ゲスト講師陣	なし	5月～7月
		集中講義：日付未定

これからのデザインは、地球規模の気候変動やパンデミックに対応する社会構造を理解したうえでのデザインが求められる。特にデザインの素材やそれらが生産される場所や生産量などの地理情報に対する広範な知識が要請されます。本講義では、GISによる地理情報を使いこなせる技術を習得することにより、デザインの背景にある地理的な情報や背景を研究や制作に生かします。

開講のねらい	GIS(Geographic Information System)の基本と応用について、実際にPCを操作しながら修得する。
--------	--

関連キーワード	「GIS」、「地理情報」
---------	--------------

受講形態	社会人	対面のみ	学生	対面のみ
------	-----	------	----	------

教科書・テキスト等	テキスト指定なし (適宜、資料を配布)
-----------	---------------------

ディスカッションの頻度・割合等	ディスカッション 頻度   なし ディスカッション 割合   なし 個人発表   あり チーム発表   なし ロールプレイング   なし 受講に必要な知識や学習経験の有無   あり、PCの基礎技術・ソフトウェアの理解と利用できる能力・自然に対するマクロな視点とミクロな視点・デジタルデータをアナログな感覚に落とし込む能力
-----------------	---

受講上の留意事項	◆対面のみ開講のため、受講は必ず本学に来ていただく必要があります。
----------	-----------------------------------